

# ジアミド系殺虫剤による マメシクイガの防除対策

ジアミド系殺虫剤の散布で、



←こんな  
被害粒を  
減らします！

## マメシクイガ



幼虫と被害粒



成虫

成虫発生期間は  
8月中旬～10月初旬  
だよ  
連作で密度増加  
するよ

○ ジアミド系殺虫剤 は、マメシクイガに対して

**実用的な防除効果** を示します。

○ 散布適期は、

とにかく

マメシクイガ  
が多い場合



**開花15～20日後**

の散布

マメシクイガ  
+ も出るけど  
カメムシ類  
も多い場合

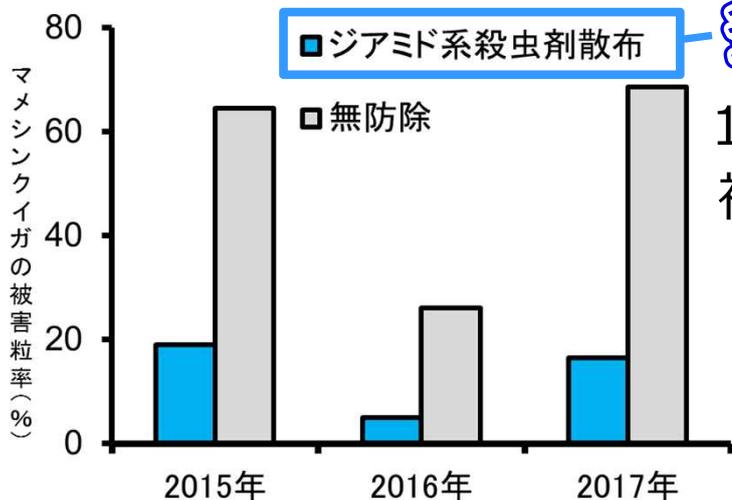


**開花25～30日後**

(カメムシ類の1回目防除時期)

にカメムシ類用防除剤と  
混用散布

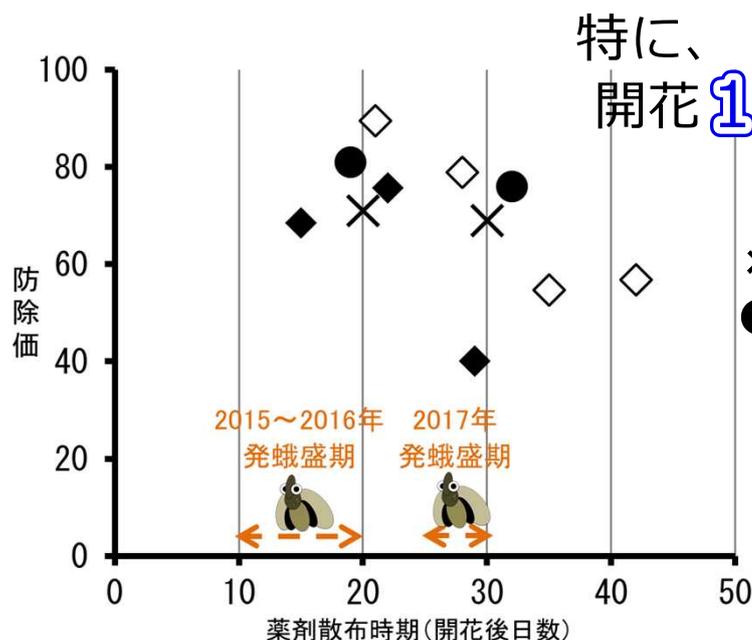
# ジアミド系殺虫剤の マメシクイガ被害粒率抑制効果



**多〜甚** 発生ほ場においても

1回散布で被害粒率を **低く** 抑えます

試験場所：三朝町 品種：三朝神倉  
 開花日：8/14～16  
 供試薬剤：プレバソフロアブル5 (4000倍)  
 処理量：200L/10a  
 処理日：開花19～22日後



特に、開花 **15～20** 日後頃の散布は **安定した** 防除効果

×：2015年試験 ◆：2017年試験 I  
 ●：2016年試験 ◇：2017年試験 II

試験場所：三朝町 品種：三朝神倉  
 開花日：2015年試験；8/15  
 2016年試験；8/14  
 2017年試験 I；8/16  
 2017年試験 II；8/10  
 供試薬剤：プレバソフロアブル5 (4000倍)

## 【本情報を活用する際の留意事項】

- ①2018年3月1日現在、ジアミド系殺虫剤として、プレバソフロアブル5およびフェニックス顆粒水和剤がダイズのマメシクイガに対して農薬登録されています。なお、本情報はプレバソフロアブル5を供試した結果に基づいています。
- ②薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を均一に散布してください。
- ③マメシクイガの発生が極めて多い場合、安定した防除効果が得られないことがあります。また、本種はダイズ連作ほ場で発生密度が増加することが知られているので、前年度に本種の被害が多かったほ場では、ダイズの作付けはなるべく避けてください。